

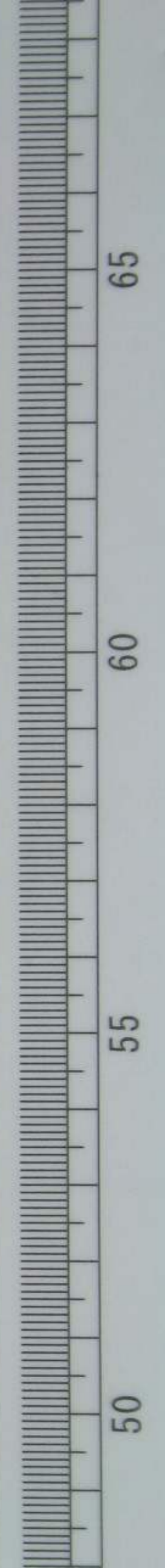


明  
 於山後所求之  
 出  
 漢  
 書

明  
 萬曆十七年十月十八日

漢書

西垣文庫  
 文庫10  
 6753



軸

曩なほ小善惡道中記と題して人間一世の盛衰と旅中の趣を戯け  
 作せり本をところ宝曆六年丙子年の印本善惡道中獨案内と題  
 せり。飛雄亭の著作を據り豊芥子の世は小大の行はとりとて  
 天明年中桃栗山人材發齋初名古入三川馬大通獨案内と題音樓  
 通客の趣を述べて本文の小冊に繪圖一枚を添へり其の体裁飛雄亭の  
 作を模擬を夫より寛政年間山東京傳悟道獨案内と題  
 或は善惡名所圖會と号基所は宝曆の善惡獨案内の趣を倣ら  
 へり。先哲の妙案に至り盡せり。今將糟粕を鏝て補綴せり不幸  
 あり。時好し稱ひ。販元不斗利と得し。是より一て書肆の後集  
 の討求あり。然とども僕素より戲作と業とせば筆硯煩多れ  
 故を以り。太年再び稿を脱せ。猶後輯の需頌を許諾す

善 惡

遊所圖會 全

文庫10  
6753

頂恩堂 跋

西垣文庫

伏小棄にや。已事とゆ。今歳初春。新小硯と發嗜好の故。拙き筆小稍責と塞め。從來嬰兒の為小勸善懲惡の一端とありん歟。善惡迷所圖會と題きて。梓と嗣夏とたりぬ。前編と俱小高評を給。書肆の僥倖ありんといふ支と。爰も名所の古跡と聞え。晋子其角が鄰なる。秋生の井戸に邊りふす免れ。

江戸楓川の市隠

一筆菴主人戲誌



維時弘化二年  
 歳在乙巳春  
 稿成  
 同三年丙午春發兌

凡人間一士の栄枯得失負後の旅の  
 旅小彷彿より母の胎内とがまをじて  
 より父の思の高き山小登り母の  
 恩の深き海と泳ぎ善悪道中た  
 連小よと途中雨に身を過す  
 連小よと生りの終小も樂の都  
 小なる男も小十九里廿五里の程  
 新編九十二里四十三里四里の  
 老の坂道小かを五十一の峠と越に  
 爰小定宿の泊とりのめ六十里小  
 小休して古来辨あり七十里八十八  
 里に發と從一百里を経て長考の  
 終小小なる只是をあるのの路  
 用の冬さ思ひは奈のの富小飽れて  
 終小困窮の境小終小多の善惡の  
 及小速に天令と如心とたは本然の



一編の左中を大抵  
 ち筋ハある  
 迷所と  
 さらし  
 せん中か幸  
 吾助の筋  
 大なる  
 ねはな  
 大なる  
 大なる  
 大なる

悟道迷所

翌日河

中世の益夜と  
 聖人の確言  
 昨日の言  
 瀬と川の流れ  
 千変万化



後世の  
 浮世の  
 迷所  
 迷所



道と  
 守り  
 守り

# 悟道迷之所之全圖



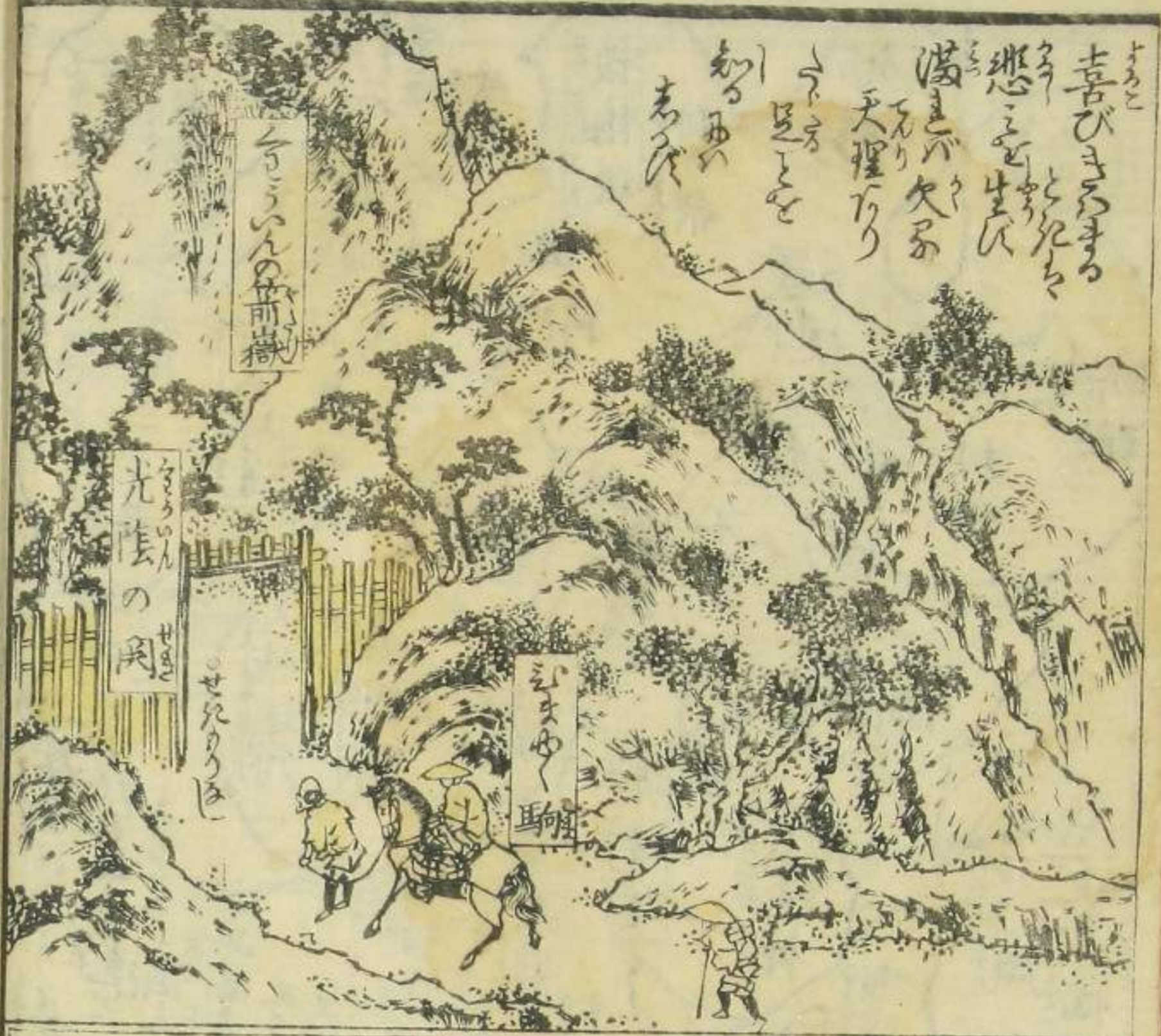
○國の屋敷小倣ひ  
 悟道迷所の若くは  
 考ふる人物の上中下の  
 之に依りて教ふる迷所の一生と  
 運の多きと少きとありて  
 又正路小倣ひのハ、是と云ふ  
 事あり

○此國方角と  
 なるに  
 此國方角と  
 なるに  
 此國方角と  
 なるに

悟道

喜怒哀

喜怒哀



喜びまらする  
 悲しむ生ひ  
 満ちた欠け  
 天理なり  
 知る  
 知る  
 知る

悟喜乃 問皆道 唐棧洞 箒要道 難皆働 参隱同 妻戒道 福祿道  
 外一統録輯余集  
 この本画は...  
 師妹...  
 芝居...

因思山豊捨人舎神社 宿孫通守一の名勝なり愛むハ風俗素  
 撲渡厚み以春藤と好む稼穡と力尚古の風と失はぬ風十兩  
 和乎たして穀成熟人民安饒めくは海波軽ふ幸に風風  
 舞麒麟遊びて松の幸聖のまを更び梅も橘の香も花を重ん  
 竹ハ節操の程すれと藤一亀鶴舞遊りて菊菜ととあをを限  
 と知るくは折りの地へ入世才一の所すて新物言ひ山ハ日月の神  
 徳深海りく忠徳の海深くして吾賢の道法アとて性来のまを  
 清くして善く神徳依りて故ゆふ本然の道満正在正路あり  
 風さる道ありては孟子の性善多と六思道ふ今を教とせせよと  
 云く由荀子の性悪多と六善ふ入るを教とせせよと

乃由此神の心山に自化體なりて又常の道を守りて女も此の  
道に専らむは至事と知り身の外限を毎に居獨と信じて知る世人の  
社小丹波と遷して祈誓一身の行ひを全うするの不易勝徳を  
益のついでにいとて反し護をその神の徳を以て守て成部印を其  
實西山平産全事 軒寺の字遠れ 和合の道筋小なり 折衷を度  
女房大事系別の伏あり懐胎十月甚重なる為産重の場不  
勝存ふ死り出入の取扱老弱必抱深切ありて是を原日妻存  
す一産を去るるも爰も出れぬありて此の赤子早めを存ぞ  
家秘お懐胎は降誕す一人倫榮績の出来也此六性長の子  
と雖もいとより存り本慈悲を示教法ありて亦此の明の應慶の爲

小教獨不憚の姿を現し家の真慶幼児の中小定題一然れども  
手あるも同法應念法修めり星雲果の成長りて支那菩薩  
の慈悲深く身にお慰みなりと悲音ありて終に又人の體を要  
し赤子の身とあり則是と 若めお祈る所の宝物多し

昔影の鈴巻物 むらさきあつこ土佐の又平筆  
横巻金紙 嵐の源入 松のよ免入 其外一代記 名物勇士の画巻多し  
新巻の月傘 松のよ免入 赤い巻の玉 松のよ免入  
手巻の法鏡 松のよ免入 昔劣若蓮之像 松のよ免入  
心必の短冊 松のよ免入

はくはそをたてばりあめと子とたけり  
古歌

子故の迷所

わづらうまうげとていふとえ  
さきかわんあんをぬけまこ  
こふきまうまうまのんを  
あはむけけつるまのんを  
わづらうまうげとていふと  
えさるるまのんを  
あはむけけつるまのんを



癒瘡峠

瘡疹山

新居

食ひ松

あまの天神

おとめの跡

金魚の池

あまの山

新のりん堂

手り堂



すまの山

ねまの籠

あまの山

ひまの坂

やい井

あまの山

子故の迷所

あまの山  
あまの山  
あまの山

あまの山  
あまの山  
あまの山

あまの山  
あまの山  
あまの山

あまの山  
あまの山  
あまの山

あまの山  
あまの山  
あまの山

あまの山  
あまの山  
あまの山

あまの山  
あまの山  
あまの山

あまの山  
あまの山  
あまの山

あまの山  
あまの山  
あまの山

あまの山  
あまの山  
あまの山

あまの山  
あまの山  
あまの山

あまの山  
あまの山  
あまの山



恭平山安樂の身哉

身哉

又常の道より登賢の乃不入り公道

人道の本街たりより起るこふ居付在るは御神の地方一丁の角

地面有徳天神と申天神なるも忠於子息人として四兄弟あり

牛馬牛馬皆つく小塚より忠於の上よりゆふ家智お積るはじめ

ゆふ性質素朴心直にて忠孝の道を守り候ふも委を願ふるは

質素儉約と有と上よりと起ひ下と憐れ慈悲の心深く候ふ

ゆふ之を主たる所の勤小怠なく子孫長久の誓業と申候ふは

親族の末社小の慈悲と誓ひの春層と忠を財宝と起り候ふ

故小天理小懐り人徳存き候者天社あり

夫婦石 夫婦石の恭平山の麓にあり相傳はり候ふ若くは夫婦の

農氏あり常小居ると知て委の公家むりもく夫の妻と起り候

妻の夫と起り候ひかづき互小脚を耕作の勤怠らば二男二女と起り候

その忠孝孟母の徳さあり候はばとまよふ篤実候村小しん孝

行小事けき六國あり候廢兵と起り候の忠孝と起り候

と起り候因候耕一丹練小暇なく夏の炎暑と凌ぐを化を

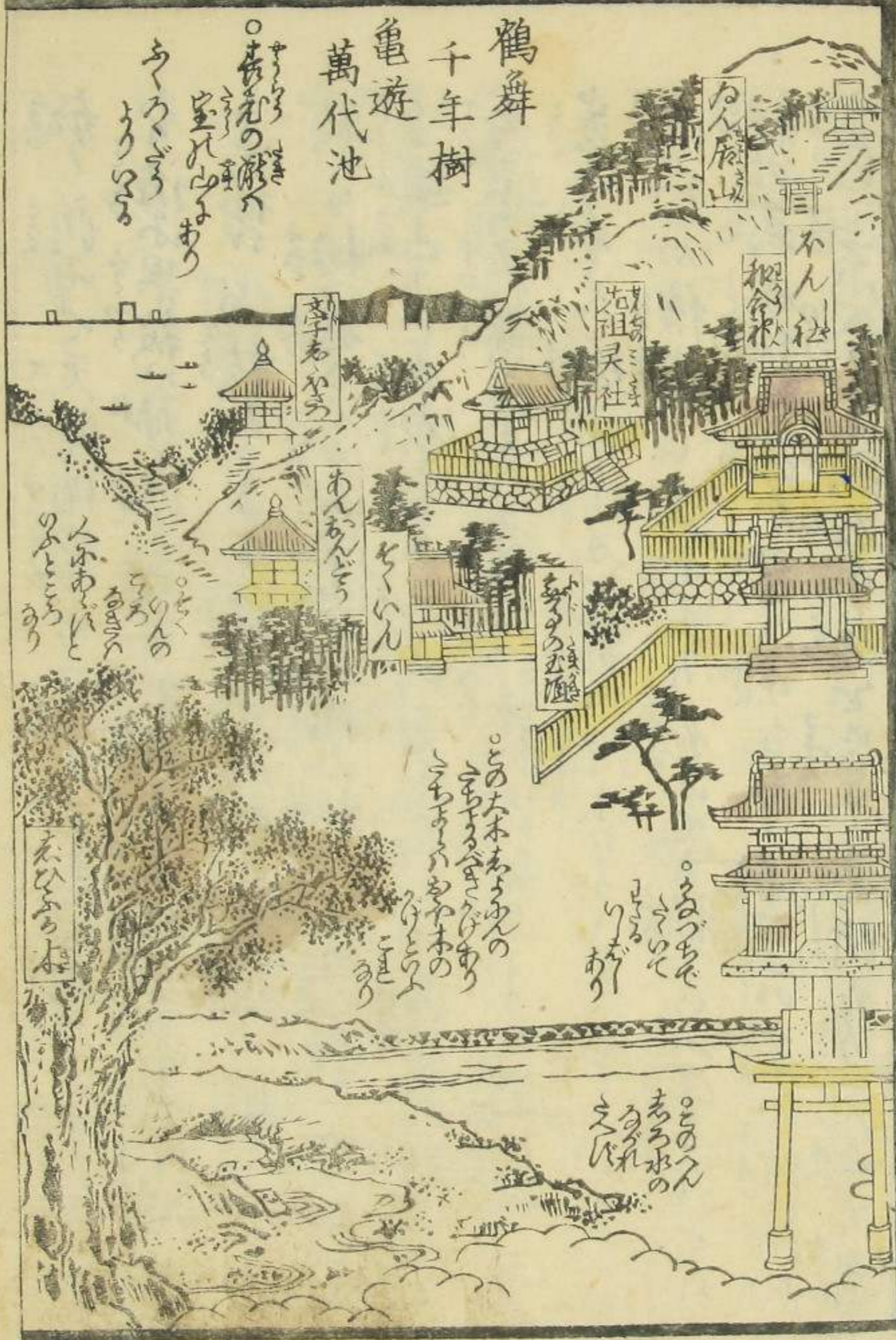
樂と夕影柳の下涼男あり候妻の二姉と起り候

是と我天より授り候るも貴と起り候

かびき皆海存小あり候たかく瀟漫の公あり候の是候止

ゆふの故小夫婦の形勢と起り候る古忠と起り候

高運山 之教道より福祿道へ入り室の山之の道なり平人常に



鶴舞  
千年樹  
亀遊  
萬代池

○長光の殿  
室れ山あり  
あろくさう  
よりいさる

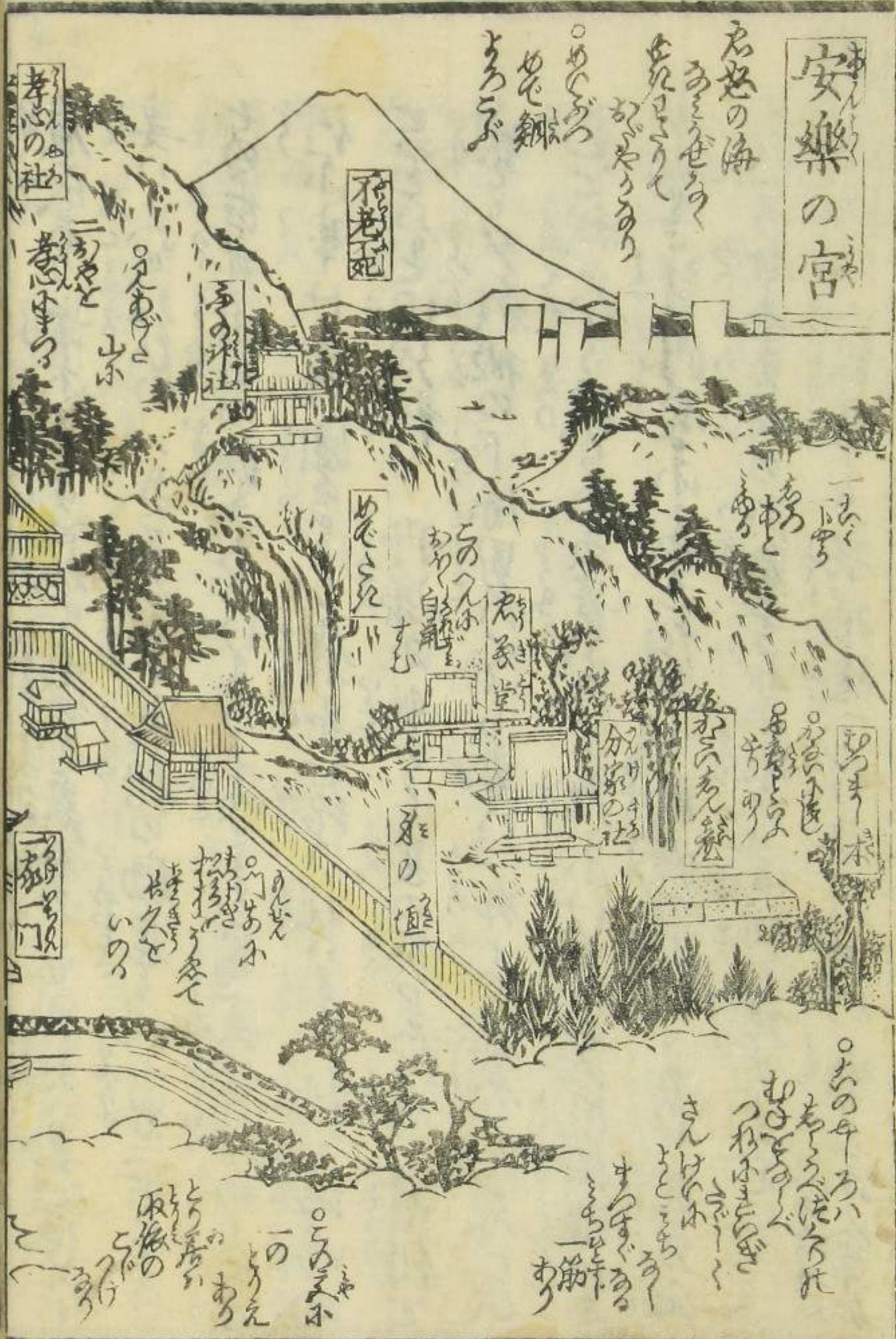
○あまの  
のり  
あまの  
のり  
あまの  
のり

衣ひふる木

○この大木あまの  
のり  
あまの  
のり  
あまの  
のり

○あまの  
のり  
あまの  
のり  
あまの  
のり

○この  
のり  
あまの  
のり  
あまの  
のり



安樂の宮

名怒の海  
あまの  
のり  
あまの  
のり

○あまの  
のり  
あまの  
のり  
あまの  
のり

○あまの  
のり  
あまの  
のり  
あまの  
のり

○あまの  
のり  
あまの  
のり  
あまの  
のり

○あまの  
のり  
あまの  
のり  
あまの  
のり

○この  
のり  
あまの  
のり  
あまの  
のり

執く所内へ天運循環といふなり玉皇の本御座を以て道  
あり諸小果報の勝てはともども果報と果報といふる中陰縁を  
とまはす陽報あるは運天あり牡丹候ハ概ふなりと  
以とも概ふ揚る人があけまはす自然牡丹候のりなきやうは此  
言運止の苦難ともふ不慮あるのなり具質の報たあり  
云の葉の花盛るまは運從縁縁の表智ふより福内欲の私小  
爰ふ玉の遊ふともふと弊の礼とあるさまごとく人もことごと  
善むしか後構といふあり何ゆても抗といふ又これあり  
親の為子孫の為不登るよりもあり煩惱の雲不掩れ只  
室の山小入んと欲ふ道と忘る迷所なり天命を樂

のの初るるる道ふかむむは漢まのなる患眼亦小なり  
き所あり若海内といふ人徳を深く物と念も不念ふ深る  
今成海用と良宝れ山小入んとを思ひ立てたの題と厭は  
一人の婦人と葉肉小粒を徳河といふ川とより脱ありて室の山  
の事腹小ありといふは係小徳風起て吹掃さると先を道の婦人  
又夫ひすごとく帰来りといふ是を係小室れ山小入あがらざる  
空しく帰るといふ又時致社縁小對面のと見是を思ひて  
いふ事ありあまのりといふ朝は素こ小居合せばともなるはず  
志す様なりといふ山小登るといふかたといふ下野原にあり  
のひー迷所の言山なり

世渡の迷所



かろうんぎん  
あひらぎの  
こころあはれ  
のあはれも  
あはれよ  
あり

高運山



その身は花盛

増長谷

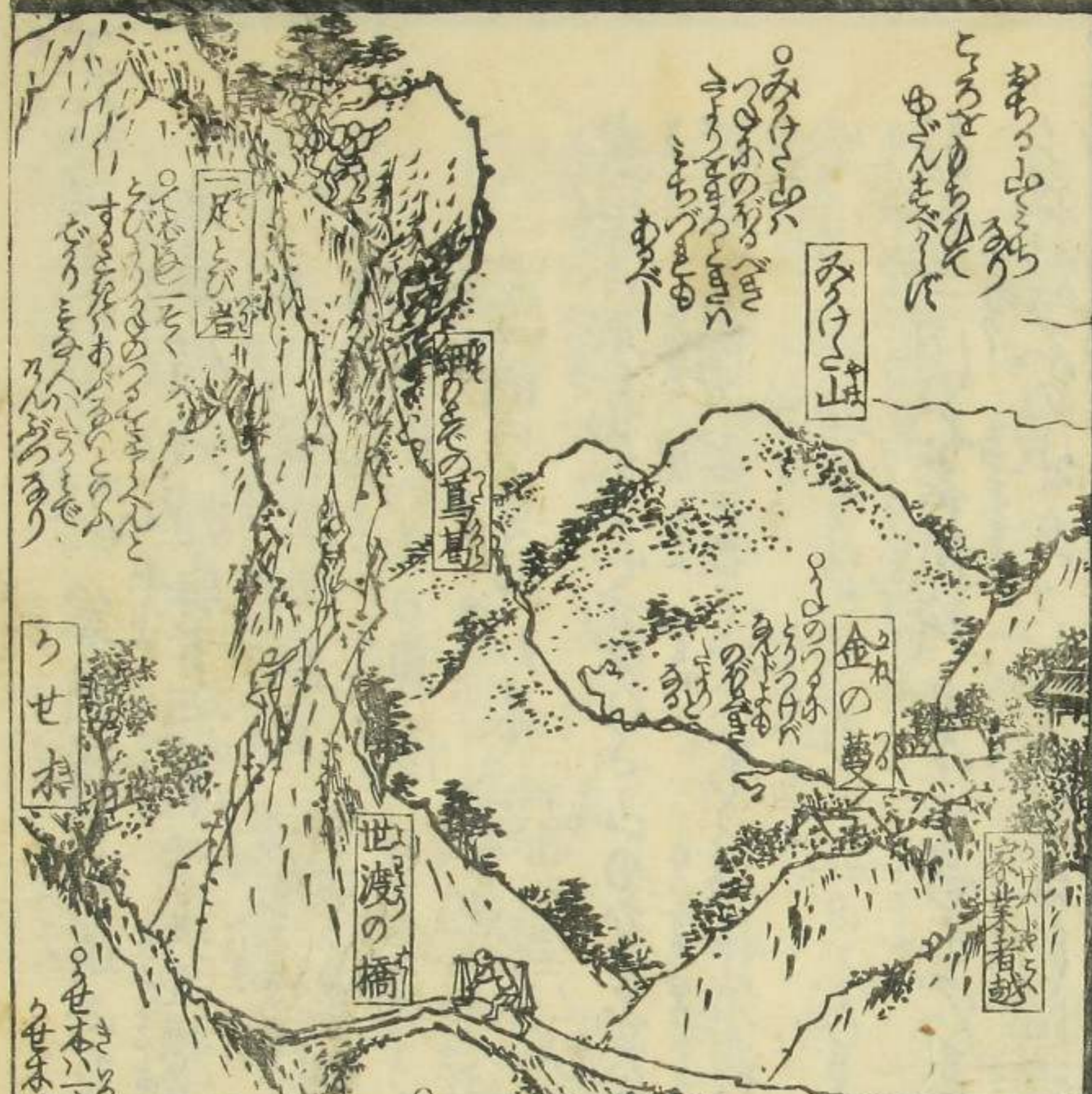


○どうちやうぶあ、かろうんぎん  
あひらぎのこころあはれ  
まよひのこころあはれ  
あはれよ  
あり

家の面木

○その身は花盛  
あはれよ  
あり

○あはれ  
あはれよ  
あり



あはれよ  
あり

みくげ山

○あはれよ  
あはれよ  
あり

金の藪

家業者越

世渡の橋

うせお



○世本一山のまよひあはれ  
あはれよ  
あり

○あはれ  
あはれよ  
あり

不經濟散財寺

用也 等用道の技道小なり

本尊借錢檀床者迦如来

モウ呉元損者一統散例の御作

身代質堂伽藍堂

食哉不食あんと上人再建  
空腹ひ甚五郎造立

焼吞陀如来の尊像

はまりん國より傳來

左りの身陀如来

虚付弥二郎梵天國より寄附いりありが在り由  
平気平左門万八中よりあをむむ町の井戸より出現

崇寺ハ平氣小一てんけと山由なく

實念神の社と體はよふ

祀りて系流を著二季にあり後悔た悲結者と

是と後の祀云

本堂ハ根接あふて出花大被ふ及びさへ

自力小及びがく

親敷一月抄あ掛持

そのあをのまも身代のた元をさだ

く後焼石の水忽くさ元の本阿弥陀佛とふ

出現あり係

らん亭小僧の極小腰とけく由世間い

鬼門八方をさざり山門

の二面由出来は是那なくかふ小なり

傍後の劇小あて浮む

彫家ハ實念性人別とまあり

雜物僅次ふさるん

畧縁起

徳人けちりるの為るま

柙あ山の厠基ハ俵一編性人子孫の為小

救年縁若

必あて幾たぐれ案若紙凌ぎ

前色の物んごも手拭とらお

とあ古布子の衣あどまらひ

空蓋の張とまは生涯翁と

肌身小付む務後身との山来

藤頼りて勿念間に七万本の本

堂成造とあのみまより

法書に書花と達之ありて一代あり

令のあ人となりあひ地

あが底の大地と達之ありてあその



不經濟散財事之雜物

樽が大事



○月もまたの  
あがめり  
何れにけり  
二面めん  
樽が扶者との小窓が  
健あり

尤多如来の尊像



○秀がの儀念の  
ちひと読さの

○樽が大事の尊像の  
まじりては二日  
まじりては二日  
まじりては二日

○秀判の尊像の  
まじりては二日  
まじりては二日  
まじりては二日

淫乱性人の於文箱

○秀判の尊像の  
まじりては二日  
まじりては二日  
まじりては二日

証抄印の真蹟



借用金書  
一金三目

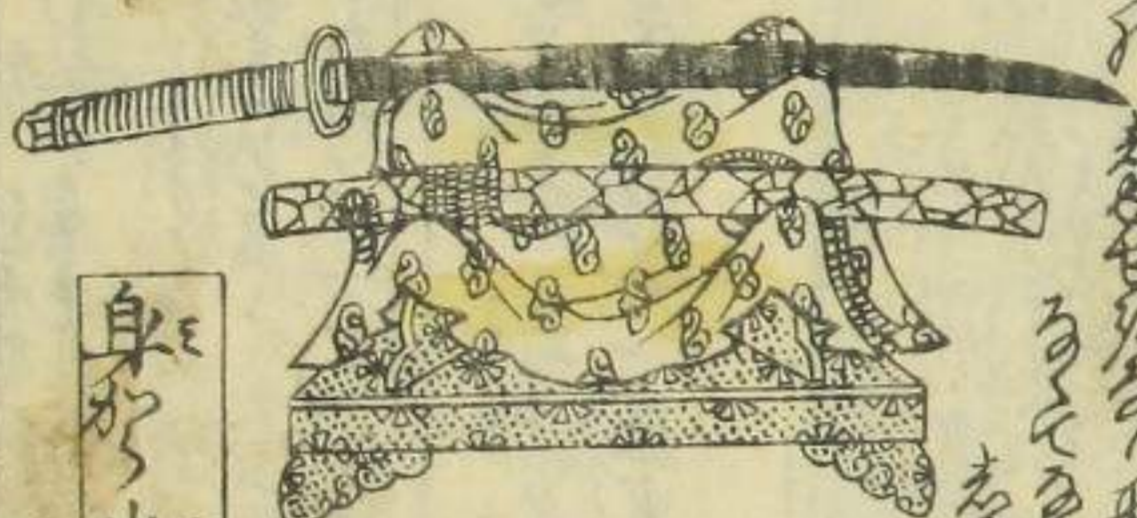
右海老や心  
左海老や心  
右海老や心  
左海老や心

○秀判の尊像の  
まじりては二日  
まじりては二日  
まじりては二日

○秀判の尊像の  
まじりては二日  
まじりては二日  
まじりては二日



○身が  
りふ  
さく  
さく  
さく  
さく



身が出と錆刀

○身が出と錆刀  
まじりては二日  
まじりては二日  
まじりては二日



馬鹿逆姦報  
嗑所當極欲  
多文育結佛

分散二足三門額

親乃撥  
金乃撥

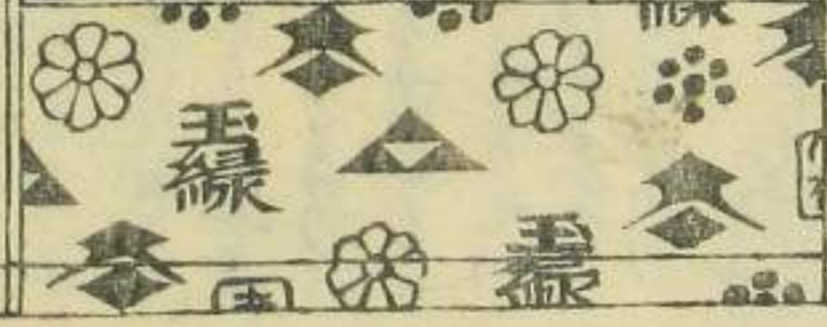
○とんねおごりてまゝに  
つひとてつめがさめれ  
多いさあまをせいのま  
ま争うがらむいといま  
ちいめくまある  
うははまあり



○孝のたまはるゝが  
あまのたまはるゝ  
あまのたまはるゝ

○あの類の身と散滅のいりて身材のちい  
んてさう小妻をあらあまの成法所の由  
まてまを道やの意をさうひ  
百葉流 抄子ゆき 雲霞 柳  
ありてのまをんかたのまのたまの  
ちんくうのまをんかたのまのたまの  
わうちんくうのまをんかたのまのたまの  
とんかまをんかたのまのたまのちんくう

○おはまのまをんかたのまのたまのちんくう  
すうとまをんかたのまのたまのちんくう  
○金のまをんかたのまのたまのちんくう  
すうとまをんかたのまのたまのちんくう  
左のまをんかたのまのたまのちんくう  
道徳のけいれい



性得大酒の筆

○大酒の筆  
性得の筆  
性得の筆

三損の身と



不取締のあけ鎗

○不取締のあけ鎗  
北の具するのあけ鎗  
あけ鎗のあけ鎗  
あけ鎗のあけ鎗

○三損の身と  
三損の身と  
三損の身と



知る事なる死者の病ひ子孫のわづらひ親類他人  
位牌新敷取せんて我思を九尺二間の裏店と一字再興し  
多の不経海教射交と号し後悔を才一の名所なり

南無山仕損交 此の山のまづと示りり本令の損者を安んず

仕換交の借銭の測りたり 委平元れ一文あり月代為城の  
古跡中々やはぐえの裏店小引銭を米櫃の底に見くけり

かり平元の一丈元りやう借とあるは法人とあやませるは平  
元借とあるは伯母山の山内池は孝家名譽のうとすするが  
各々うあるは各々うあるといふつらの救ひのくえ貨の告さうかどふ  
合方して様さけし今及限と銭のひ平元借のわんやうとす

なぐありしといふ

貪婪山強慾持 中後道より入る等要なる速所なり

本地銭程光閻陀如来 黄金佛 吝嗇利欲和尚開基

非義非道妙應像 此の山よりまゝ成るる小せおひ木のあそ小者元れ

思想菩薩 利不利と様々小強慾するも何處かありあり

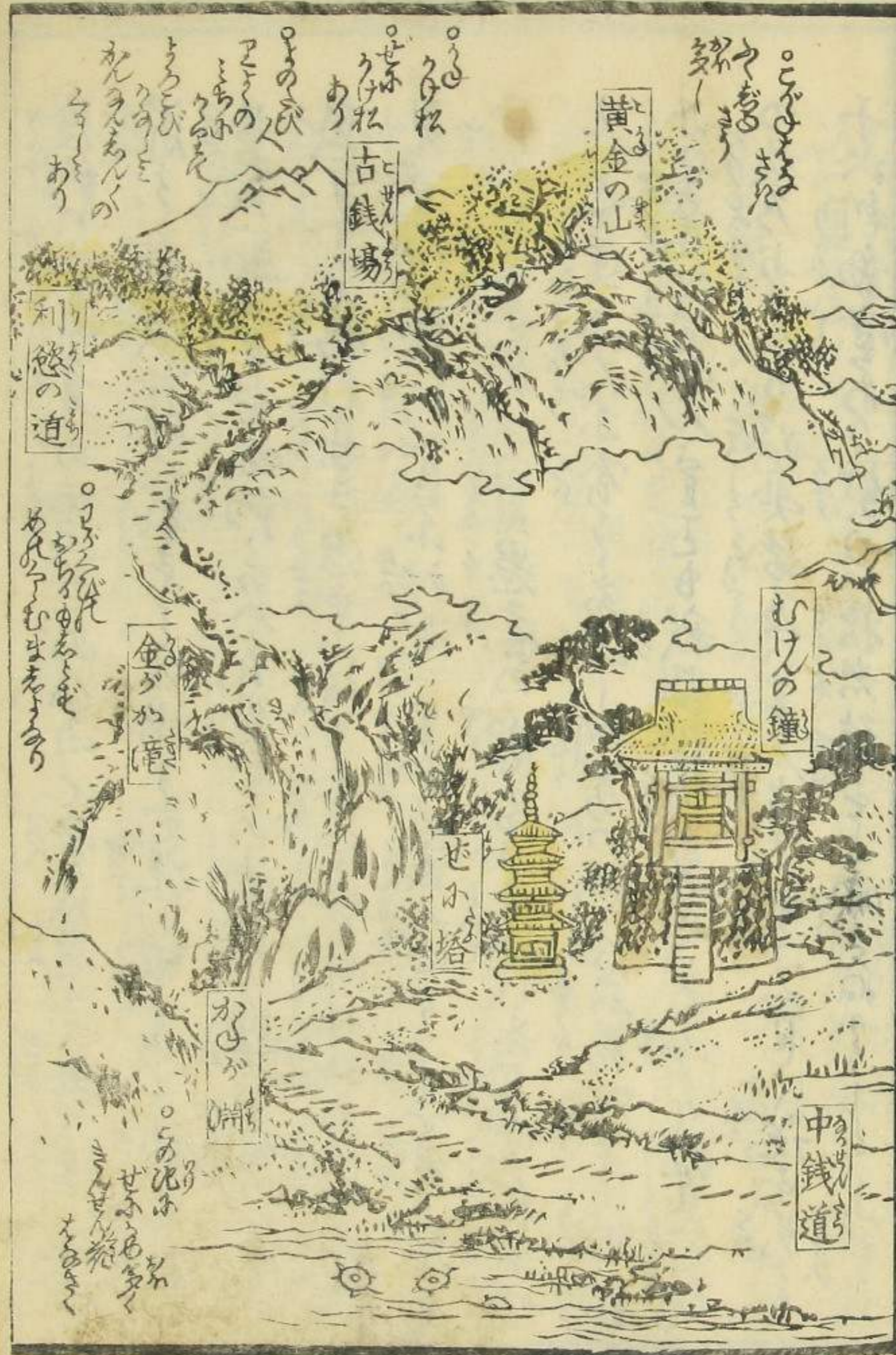
十一面觀是恩 其の上の一面の心とあり小者一十一面觀は其の心とあり

此の貪婪山強慾持の木食吝嗇和尚の開基小く今年春

山に登り今人の蔓小元付て青山と開き今小私慾を拜有令者

小宮教はひの身傍手因徳張田の橋成と寄附区のみ境内ハ  
三角小一七事と角祀と角長理と角との角とをさび身不恒成  
結ひ世間志るまの堂塔伽蘭庵寺あり  
抑妻山の善要道中一の速所ありてその他ハ古の系は廣きゆ  
止りりり殺風系好慈の海深く面の川有く流し不恒成と  
以る養屋りりその廣大なる限ををさび令のある本は方小繁  
茂世の中をさるる事と知るまの令のなる本と以るハ極り相の気  
情光の気世が世の相返さぬ気必多栗気むぐじ木属すを  
種々の気生茂里慈不恒成を知るまは養不慈の徳有るとさる  
ありて机方物を離さざれば推さるゝ慈慈情のなきをさるゝ元休小

芝は里推るの向小水小死歩めく抗るハ濡るを栗養  
かこ成候び取寄るとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝと  
姫波の城跡取と切通し一英理不知身不我我  
蘇小園を後を掩ひて無理非たをりハ養流の石  
橋新成候返漸の柵と慈の門不存り養不恒成を善の  
各物と安を分る毛井の小判の柵を渡を守法奴有  
紋の勝鬼堂りり傷家と有法奴佛起中て有法勝鬼と  
以る徳小令の妻人ありと名譽冷早悟と有養禁山の栗  
の院是あり文盲島味れあり是と俊約の東流とゆる各  
番物より令成満て候養事分限と思ふハ大の養流あり



○こゝの山  
 ○黄金の山  
 ○古銭場  
 ○むけの鐘  
 ○中銭道  
 ○利慾の道

○山  
 ○谷  
 ○池  
 ○川  
 ○路

○塔  
 ○鐘  
 ○門  
 ○庭  
 ○軒

○松  
 ○竹  
 ○柳  
 ○杉  
 ○楓

○石  
 ○橋  
 ○舟  
 ○魚  
 ○鳥

○草  
 ○花  
 ○果  
 ○木  
 ○土



○利慾の迷所  
 ○徳の道  
 ○子の雀  
 ○もりの川  
 ○鳥

○山  
 ○谷  
 ○池  
 ○川  
 ○路

○塔  
 ○鐘  
 ○門  
 ○庭  
 ○軒

○松  
 ○竹  
 ○柳  
 ○杉  
 ○楓

○石  
 ○橋  
 ○舟  
 ○魚  
 ○鳥

○草  
 ○花  
 ○果  
 ○木  
 ○土



多きものほいなきもの似るごとくも言利を極め難せども衣  
食のたひあり実よりも盡よりも合小似るものなりども  
可畏くも言まき世と孔方大夏も説く小不働の言窮む法  
多言代筆むるごとく負うごとくも後金と能くごとくも  
事小隙とて恥せうごとく十の字の下せ左に押柱七と云ふ小由  
程がたけなき誰とて金を貸りあらん是我輩小説と云ふ服  
肘も後まで空腹おぼし時冷が菜ものづうと云ふ人熱  
奪りて我をよまき各利を考へる方と拾ひ化の捨てると取れも  
元手なり小世渡る捨る紙小 equal 紙屑望りひあり合の中  
にありざる。今後小入障りとも事急するごとくす死縁なき

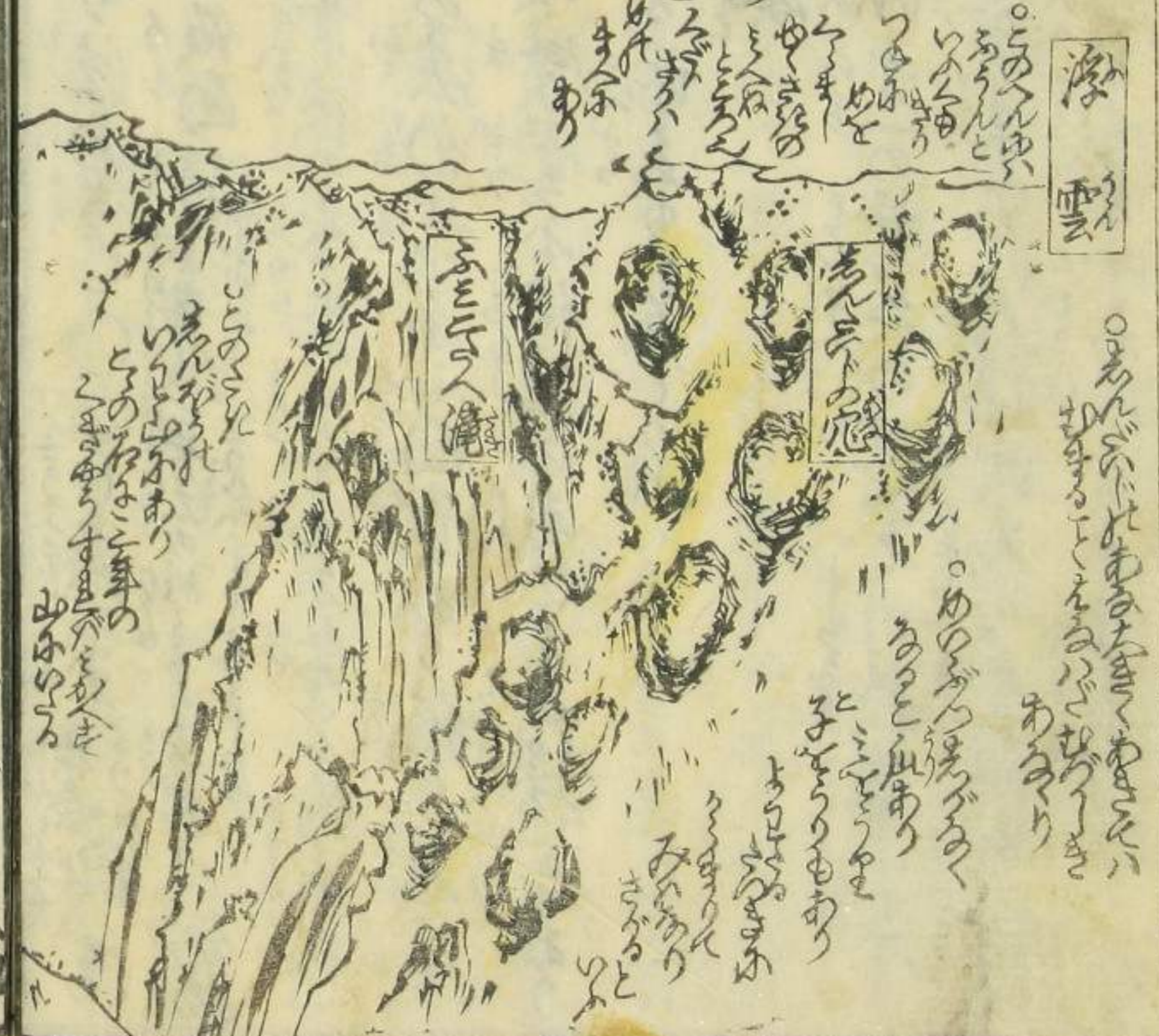
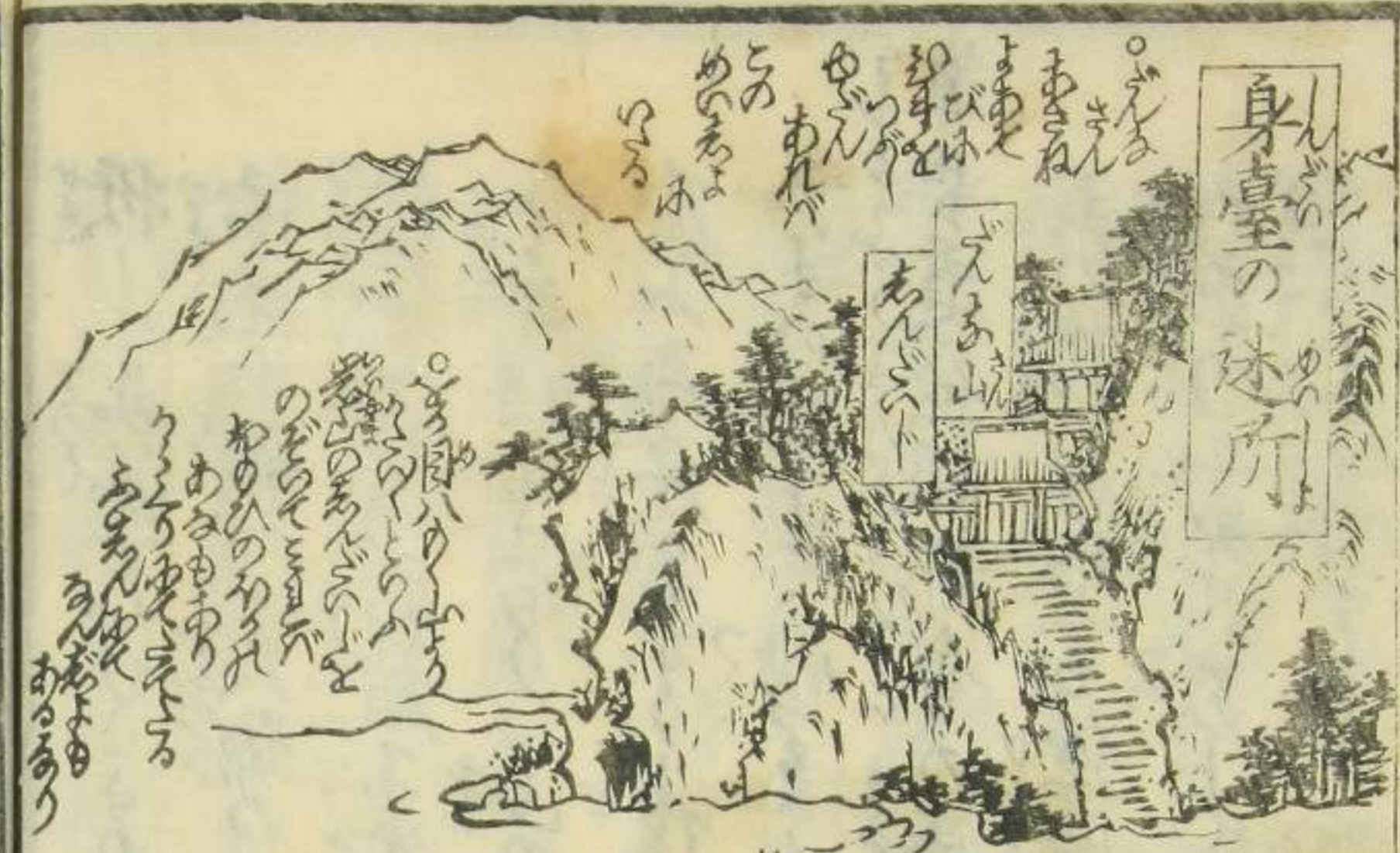
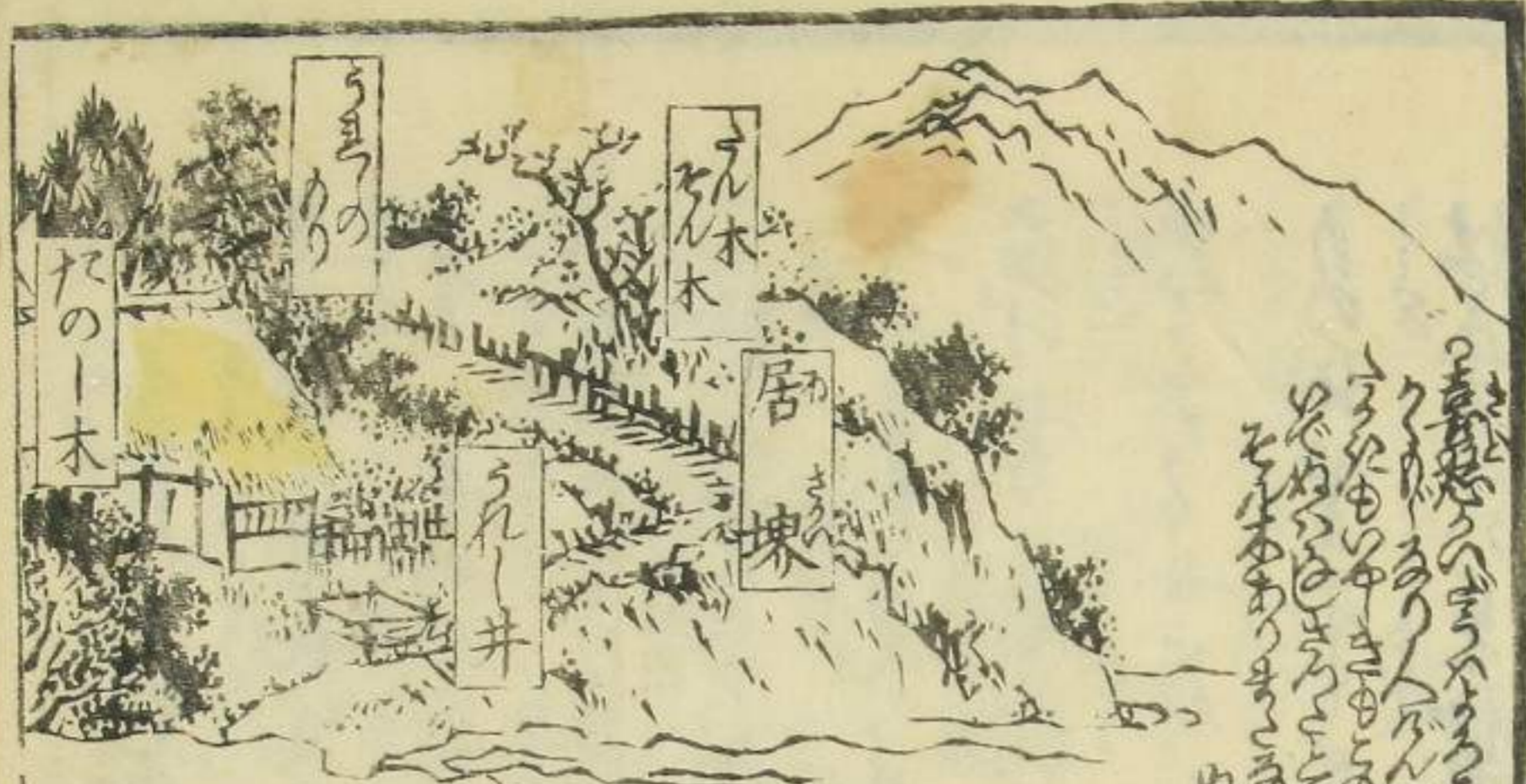
元生に後一紙一我宗門小入と云ふ合八涌出自由自在難達之  
令成能なる麻考六人間の屑久雨平上考一の痛涙なりと  
愚者の一徳説は妙なる説法を忘りぬる孫バ爰小出乃を  
運び十六利細の糸為得る能くなく信小急るもの  
働きとありと徳志められ利益必存とのみ

大山不當妙應

貴山六利欲大師の用基小して新回用發の功成就なり也  
正達と云ふ証拠平一孤山夢師元令説法平支配所  
あり本地不貴妙應の言像ハ骨折む小合成就なり矣  
強ゆることありと云ふ也

小千米成多く懸之字下の價を以て喜去る小をき所ありて奸  
智小更なる快像方り半此鹿食報者あおの秋の海深く帆を  
係る船を繫あき後小山々多く懸不より利徳の迷不なり  
その道海への進從輕爲れあ莫火の進お成送り媚福ひ  
一足飛の思あり此乃彼乃の屋曲と一厭いど令の憂小元付  
山小登るりのハ巧言令色を以て表小兵藤と飾り表小  
火の車の苦患あり發刺の如とより爲水と踏懸の苦仍  
艱苦を經て山小寄る修法者ハ希小憐と所虚八百の法を  
ゆふ是と法小係るとよとの山小之於已於の七弁於有り  
令之精修との橋あり山小子玄冥の跡茶座へあゆめき

獲一之山をけしより法相後 ○ 毎白卷の玉 獲素  
語説の類 ○ 大面の仮面 ○ 佛物  
他の品を力 ○ 妙殿子筆根の衣若く狐と馬小寄る繪巻物  
と介のりあり ○ 山の奥め止や小七面畫あり総る鳥計下  
倉ふ殿建立たり獲摩壹小修法小用ひ一爲情一有あり  
おまの度ゆへ修るる 毎三もありとのみ  
等要道金銀都會の湊  
去の所ハ民とも經海舟一の鸞花の地ゆへ所教殊小多一  
又前より二季ハおしく群集か大福所元所令浪出入所仕  
入所小遊所ある大が小が小若人とも小種との所有り入



小舟 舟橋有柳と渡り一割二割の利値を以て別荘方小判の橋  
より橋小橋功木なり此所縁縁魚手所並あはは流不橋も  
多し。美村の夜橋小橋つと橋合の古紙小年紙月紙の  
引道多し。息子の夜泊尻を拭ひ去取美若の私慾令  
丁稚の實食小枝道あり。亭子酒を呑む女房の癖酒  
か合おねを呑むるひ終小一終二終の月酒餅の菊燭  
あげやりの屋所の新炭新味増増小まを費多く身上の枝  
乃とかる女房の美屋をを費の是何一取取由なる橋の  
りの成世中由せは美目増長くつるもの欲がり人々費  
仕立の只は家の縁ひまを人小ふあむ費多く里の園病

小引 乃多を身上の枝たり隠居の佛さんまの賽は妙  
をの渡屋形ひ無なり令をる小合ひ本家の痛くなる  
枝道あり

好真比目衝色の道 け所の人間身一の迷新多一編編小く

意のいば味言依あはは小るいも低いも色のなとひ意の測あ  
清水橋小く泥水多し爰小首更と身まは浮む散なく一命  
ともあままると云意の枝橋あ合眼人相成用ひ意の言  
小迷へのり先入るを送せあぐる人の具具も耳小入る田  
案の介れ乃橋あり  
比翼鳥。連理枝。結の神の社あり 月老社と云。花見小あり



逢身八契 色の好臭は遠くを名所あり



不逢狂乱 人の好臭は遠くを名所あり



障の口説 人の好臭は遠くを名所あり

見會の番頭 人の好臭は遠くを名所あり



合せる氣半 人の好臭は遠くを名所あり



意兼山の飽の盡 人の好臭は遠くを名所あり



傘の夜の歩行 人の好臭は遠くを名所あり



下辛の慙性 人の好臭は遠くを名所あり



斤々の落顔 人の好臭は遠くを名所あり

青樓金盛の櫻見岡 二品堤の中央壺門の中あり

有頂天神社 櫻見岡の中央壺門の中あり

通々神 櫻見岡の中央壺門の中あり

大夫松 緑とらるびより苦海の中あり

火心本との子と持て敷ふつき嘘の川の水上流るるあり

止む柵ありまき実の水泡と消容小橋多き世とあり

子名を覚ゆるもの子名不及た返て嬉しき音もなり

越え後朝もまゝの空影の凡次牙と繋ぐ橋より換小舟

小使形もる徳城徳とより小舟渡りて虚の川小橋あり

身代と祝文の蓮根より多く穴とあけ大平の焼穀の如く

遊楽朋とほて幼妻の別為志裸宗好院とある是玉と徳け

城と徳けを成徳け身を失ふ男小傾珠の名ありと小娘女

の客小唄と徳とをむらハ酒世小やんるありのあり

山の神の祠 妻皆同疾板板の共中ありハ八丁中八丁ありと

小舟の城と接へ朝藤正好登成考登忠の渡小出法々鹿鹿

魚手の家軍配と毎へま日酒大酒小あるあいの古銭徳ハ病

麻向腹小娘の筆とんせ舟不狸屋小橋とまげは神とほ

兵を小児のてく小扱ひ軍を成指揮して出出は法々

ゆきまき小角張あつて半は教はるゝ人の善悪を言ふ  
化を辨む善を日く是は成不知なるの不足とて言ふ  
事と人との神の悦宣示不肖は忽ち罰に成るなり  
なる小山の神のふまゝに言ふ所の神もいふ

内儀清浄の屋代 妻皆道小存りとの於神様は家子伝納  
ゆて情を深く成天れや教ひ常ふは教と少く流歴不  
信する人もあつた別して経計の業を消ゆる子孫  
の為小子の世に育ちあつた教を成るゆふその子孫実  
ゆて教を後孝中成法清の内儀善神ゆひ清浄の  
屋代ゆて家内安全とせりゆふと云

逢愁街道の後悔道の續きより常小旅人偶然とこの道にゆふ  
係る迷所あり身を知る者の爰小行ゆと獨り怯む難なり  
逢愁街道の事不幸れ人禍福とも小迅凡の如く奪り坂の忽  
ち下り坂となる有為時愛の存助ゆてゆふ大形小業と氣を  
居ると死の後悔を小する所あり 倒將先の杖をつぐ先小  
立道連ゆなりとのふ

南無三方荒神の社 との社小百日の説法ありと放屁を柱と  
なまこめ時庵とすおめする四跡なり。跡の条何事とも何事由  
間小あらび皆後悔を小あり  
勘堂難澁さん志よの北上むの千手観音 風奴の守あり

海老 父は生祿母の乳を奪けき遊んで答ふり此は福が  
鼻欠地藏堂 若州の舟打放湯瘴毒此は鼻欠の苦像とす  
愚轉堂 夜あ大洞小流を教財令入とす此米がるの小流  
支る形痛痒巻よせむのここのは後悔の迷所  
此はすて有紙の令後を野々元月小大毎日を思ひ毎月  
毎自小なり店賃の少覺小はまる風俗ありて極と嘆きの定  
例なり一あはありと必ふ公の山樞宿の嵐此は咄ぬのふトのふ  
右方とふあ考小流を射一寸是の雷を流向ふ水小世を渡り  
俣よ俣の川の流光陰の矢より由迅く性成二方の岸小記す  
ゆ、物と案杖後悔と小流のく詮る兒魚風なり児事讀む

おの道小入るの家

苔野一心事 かけの細乃小なり形著天神と迂一紀る念は美  
樂寺境内はしく一木の美辰なり家の入樂の念が倒る古  
川の水ささむ流き苦勞かわさるたす氣樂にけ後福  
そ安樂の道すぐかりわんまき岩あり  
道樂事五重の寶塔 無分別性人造立  
出世の乃小なるもの何ら寧浮世は愛りて吾儕あまは  
り相の本と以て送り奉中實底のなきをりして上テ下テ  
世捨てき救渡をり自ら實とて云一升入罰ハ一升入愧死  
協勝小袋協勝持也由道舟を大之あまが乳保小善善也

一は其の得ありと擬賢人の心小らざるも門公の令儀を執つ  
不ど能く味い喰ひ不精も此れ出さるひは是の  
換者の傳法少く性善あり此れ負て塔を住持する極の  
体患火の車の若患あり此れ傳へるも極の極のありと云  
借が大名入 此神の地氣芥の如き款ゆり此れ神の  
傳るが宛初返さぬ本主平深まりと居るなり 大名神  
不居言えとぬき成つて小備傳の云ひし小傳りて切令の  
返海忽此心あり此れ地氣小引智燭磨大玉の如くた  
死の峰 親分山衣法平傳ぬ換者亡命の回地述るが

一の衣ありん無きと色より經送落し掛元城より入  
傳令り清雜物の百貴の形小編必立一益〇一ツ竈  
〇猫の梳蛇貝めんまご佛の存居り。古事には其のけ  
ホわり  
金澤山福祿延壽德 爰山に正連正路のまゝ出たり  
道あり室の山安樂の如といふは方令限の若山を堅  
い身代と云ふ買揚之白雲送り株とありて美念れらる  
教言く受らる目出滝の出世疑法の小昇り其  
門あり福をむらう波風うぬ袖まき成りあつく茶と  
祝を靈山あり

精かひんんも何程考へても光陰の第何冊の早死  
 下云びと知まじり変るまじり地が枯小なり息を親とちか  
 一瞬間あて千里の藤も帰るさ死あり人間一生の道中ハ故  
 日まじり一若くして息の連ある時吾道づま小案内とおめ  
 迷所の様及く遠入を正路の及く志速小室の山安樂の  
 都ふつあぐゆえく小児輩急りあふか  
 ○是れ小のまじり迷所ハ心るんふくく志すはづりて  
 出板しつひ

東都 一筆茶英泉画作



古今 秀句 落しはか

新刻 繪入 一冊

此冊子古今秀句の秀句を精選し  
 新刻の落しはかを添へて元より勅書  
 徳意のやくふちのく切巻の成り  
 笑ふ小妙く挿入し一巻のく志すは  
 ともお歌いかけしんき本

人間一生 獨案内 善惡道中記

一筆茶英泉作 一冊  
 溪齋英泉画

人間一生の道中記  
 勅書と子竹原の勅書  
 なるき勅書徳意と一  
 とたせし清巻のこの

成田銚子 鹿嶋香取 道中獨案内

下巻の國土都を幾とけ成田不勅書  
 なるかまのくしんき

Handwritten Japanese calligraphy on the book cover, likely the title or author's name. The characters are written in a cursive style (sōsho) and are somewhat faded and obscured by the texture of the aged paper. The text is arranged in several vertical columns.

早稲田大学図書館

011688985910